

## スポーツ国際交流・協力が 生み出す、スポーツイベントの 社会的インパクトとその未来

2025

2/18

TUE

14:30~19:00

ハイブリッド開催

参加費無料

会場参加  
先着120名

会場：日本青年館会議室（東京都新宿区霞ヶ丘町4-1）

国際動向や主要トピックスを通してこれからの世界との向き合い方を一緒に考えます！

### 第1部 スポーツ国際交流・協力の国際潮流・動向セッション

- 『スポーツイベントにおける社会的インパクトとアジアが目指す大会レガシーの形』  
押見 大地 氏 | 東海大学体育学部准教授
- 『なぜスポーツイベントなのか？～企業のパーパス・ビジョンからの視点』  
吉田 茜 氏 | オットーボック・ジャパン株式会社 マーケティング
- 『スポーツ国際協力を通じた障害者の社会参画支援』  
クリス・ナン氏 | パフォーマンスコンサルタント・オセアニアパラリンピック委員会

### 第2部 スポーツ庁長官表彰団体事例発表・スポーツ庁長官感謝状授与式

- 公益社団法人日本トライアスロン連合
- 株式会社川崎フロンターレ
- 桃山学院教育大学
- 一般社団法人WITH PEER



### 第3部 スポーツ国際交流・協力未来討議 ～私たちが踏み出す第一歩とは？～

- モデレーター ○ 上井 雄太 氏 | 株式会社フューチャーセッションズ
- パネリスト ○ 原 実李 氏 | 千葉大学大学院人文公共学府博士後期課程 / NPO法人おりがみ副理事長
- 本郷 健人 氏 | 独立行政法人国際協力機構 JICA東京人間開発・計画調整課 職員
- 坂口 麻衣 氏 | 公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 普及育成部門 国際協力担当
- 六角 彩子 氏 | 世界野球ソフトボール連盟(WBSC)理事・アスリート委員 / ベースボール5チーム5STARs 代表 / 女子野球元日本代表 / Baseball5現役日本代表

お申込み・問い合わせ

SFTカンファレンス2025



詳細・最新情報はサイトページからご覧ください



スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局  
(独立行政法人日本スポーツ振興センター)

sft.info@jpnnsport.go.jp / 03-6804-2776

## 第1部

# スポーツ国際交流・協力の国際潮流・動向セッション

SPORT  
FOR  
TOMORROW



### 押見 大地 氏 (東海大学体育学部准教授)

早稲田大学卒業後、(株)JTBB勤務。退社後、早稲田大学スポーツ科学研究科修士(博士)。早稲田大学助教、オタワ大学客員研究員を経て、現職。アジアスポーツマネジメント学会副会長、日本スポーツマネジメント学会理事、広島県スポーツ政策アドバイザー等を務め、スポーツの社会効果に関する論文・著書の執筆多数。



### 吉田 茜 氏 (オットーボック・ジャパン株式会社 マーケティング)

2015年JICA海外協力隊としてエチオピアで2年間スポーツ普及活動に従事。その後、東京2020組織委員会にてパラリンピック全22競技の運営に携わる。2021年より現職。日本財団「HEROs AWARD 2024」企業部門を受賞した「下肢切断者向けランニングクリニック」では企画・運営を担当。



### クリス・ナン 氏 (パフォーマンスコンサルタント・オセアニアパラリンピック委員会)

障がい者スポーツを中心に数多くの大会で代表チームのコーチを担当。パラリンピックではこれまでに計10大会に参加し、コーチとして数々の賞を受ける。また、オーストラリア国内だけでなく、オセアニア島嶼国のパラリンピック委員会に対して、アスリートの発掘、コーチングクリニックやクラス分けの機会提供など、各国の状況に応じた支援にも長年携わる。

## 第2部

# スポーツ庁長官表彰団体事例発表・スポーツ庁長官感謝状授与式



### 公益社団法人日本トライアスロン連合

「公益社団法人日本トライアスロン連合/Triathlon Japanは「だれもが生涯スポーツとして健康的にトライアスロンを楽しむ」世界の実現をビジョンに掲げ、「普及」と「強化」を同じ価値と捉え、「健康スポーツ=トライアスロン」を通じて社会課題解決を目指し、事業を推進しております。」



### 桃山学院教育大学

桃山学院教育大学は人間教育の理念に基づく教育系単科大学です。国内外におけるスポーツと教育を通じた社会課題の解決は本学の特徴的な取り組みの一つです。今春4月に桃山学院大学と大学統合し、総合大学の新学部としてスケールアップした教育活動を展開する予定です。



### 株式会社川崎フロンターレ

川崎フロンターレは地域密着型のクラブとして、スポーツ普及や地域活性化を推進しております。J1リーグで4回(2017, 2018, 2020, 2021)、Jリーグカップで1回(2019)、天皇杯で2回(2020, 2023)の合計7回の優勝を誇ります。



### 一般社団法人WITH PEER

スポーツの楽しさをエネルギーに、アフリカに暮らす障害者と地域が繋がるコミュニティをつくる」をミッションに、スポーツを通じて社会にある『障害』の課題解決を目指し、セネガルで活動する団体。



スポーツ庁長官 室伏 広治

## 第3部

# スポーツ国際交流・協力未来討議 ～私たちが踏み出す第一歩とは?～



### 上井 雄太 氏 (株式会社フューチャーセッションズ・IAF Japan Chapter 監事)

IAF Certified Professional Facilitator。名古屋出身。慶應義塾大学卒業後、株式会社デンソーに就職。2013年5月、株式会社フューチャーセッションズの掲げるビジョンに共感し入社。2013年9月には当時日本人最年少でIAF Certified Professional Facilitator(国際ファシリテーターズ協会認定プロフェッショナル・ファシリテーター)を取得。現在は、「対話と共創」の場づくりを活かし、企業の新規事業創造や組織変革、さらには行政の社会課題解決やまちづくりなどの多様なプロジェクトに従事。2017年より、「スポーツ共創ファシリテーター」として、ラグビーワールドカップ2019 レガシー創造プロジェクト、Jリーグ社会連携プロジェクト、TOKYO UNITE 社会イノベーションなどスポーツと、企業、行政、ソーシャルセクターを掛け合わせ、新しい価値を創造するプロジェクトにも携わる。



### 原 実季 氏 (千葉大学大学院人文公共学府博士後期課程 / NPO法人おりがみ副理事長)

国際オリンピックアカデミー主催国際青年セッション(2019)をはじめ、複数のオリンピック国際セッションに日本代表として出席。2020年ローザンヌユース冬季大会や2024年パリ大会での公式ボランティアを務め、2020年東京大会では参画プログラム認定イベントを複数企画。修士課程はギリシャのペロポネソス大学大学院でオリンピックスタディーズを研究。現在は、千葉大学大学院博士後期課程にてスポーツ社会学を専門にオリンピック研究に取り組む。NPO法人おりがみ副理事長も務める。



### 本郷 健人 氏 (独立行政法人国際協力機構 JICA東京人間開発・計画調整課 職員)

1999年東京都生まれ。日本体育大学を卒業後、2023年4月に国際協力機構(JICA)に新卒で入籍。現在は、教育・保健医療・スポーツ分野における研修事業を担当する傍ら、「スポーツと開発」ネットワークの一員として活動中。学生時代には北欧への留学を経験後、東京パラリンピックにおいてジンバブエチームに帯同、ウクライナ避難民支援の現地ボランティアに参加する等国内外における数多くの活動に従事。



### 坂口 麻衣 氏 (公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 普及育成部門 国際協力担当)

筑波大学大学院修了後、筑波大学スポーツ国際開発共同専攻研究員、日本スポーツ振興センター、FIBAバスケットボールワールドカップ2023日本組織委員会などを経て現職。国際協力事業担当として、アジアンスクラムプロジェクトやユースリーダーシップ育成プログラム「RUCK'ed (Rugby Uniting Changemakers for Knowledge, Empowerment, and Development)」を通じ、ラグビーの普及とラグビーを通じた社会課題への取り組みを推進。



### 六角 彩子 氏 (世界野球ソフトボール連盟(WBSC)理事・アスリート委員/ベースボール5チーム 5STARs 代表/女子野球元日本代表/Baseball5現役日本代表)

女子野球日本代表の元キャプテン・六角彩子(茨城県出身・33歳)は、チームをワールドカップ4連覇に導いた。2018年からはベースボール5の選手としても活躍し、2022年と2024年のワールドカップで日本の2つの銀メダル獲得に貢献。現在はWBSCアスリート代表を務める。

スポーツ・フォー・トゥモロー (SFT) は、日本国政府が推進するスポーツ国際交流・協力事業です。

東京2020大会に向けて、「スポーツを通じた国際協力及び交流」や「国際スポーツ人材育成拠点の構築」、

「国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援」などに取り組んできました。

2022年度からは、東京2020大会のスポーツ・レガシーを継承・発展させるとともに、UNESCOカザン行動計画やSDGsなど、

スポーツの力を活用して、持続可能な社会や共生社会の実現に向けて進展している国際的な動向を踏まえながら、

スポーツの普及・振興やスポーツを通じた社会課題の解決など、さまざまな活動領域での取組を推進しています。